

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174500767		
法人名	株式会社 日本社会事業開発研究所		
事業所名	グループホーム まつの木苑		
所在地	深谷市田中95番地1		
自己評価作成日	平成22年10月11日	評価結果市町村受理日	平成22年11月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1174500767&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社You'sキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市宮前町2-241		
訪問調査日	平成22年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

まつの木苑で暮らすことになっても、その人が今までやってきたことが継続して出来るよう支援しております。日常生活における、洗濯・掃除・買物などは職員のみ決まらず、入居者が無理なく一緒に出来る範囲で手伝っていただきながら役割を持って過ごせるよう対応しております。また、週1回以上は入居者の皆さんで料理を作り共同作業を通じて入居者間のコミュニケーションも深まり仲良く楽しく過ごせるような配慮も行ってまいります。入居者の皆さんが安心して暮らせ、望んでいることをできるだけ叶えられるよう、寄り添いながら共に考え生活していけるような施設を目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

駅から徒歩で5分くらいの所に位置しているホームである。月曜から土曜までデイサービスが併設され、日中はデイサービスの利用者や話をしたり、食事やレクリエーション、作業等を一緒に行うことが多く、それが入居者の刺激や活気、意欲となり、地域の方達の交流に繋がっている。対応する職員も相互に協力し合い、入居者、利用者を理解して支援している。既存の建物を住みやすく改造(バリアフリー、手すりの設置等)し、居室や休憩室は和室が多く、畳、襖、障子戸もあり、落ち着いた心とむ雰囲気となっている。職員は、最近自分達で作上げた独自の理念「今できることを、利用者の身になって実践します」に添ったケアに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を実践するにはどのように行動すれば良いか、スタッフそれぞれが考え話し合い事業所の理念とし実践している。	職員合意によるホーム独自の理念「今、出来ることを利用者の身になって」を玄関等に掲げ、ミーティング時にもケアの検討等をし、繰り返し確認し合い、共有して実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の美化活動や行事(お祭り等)に積極的に参加したり、散歩を定期的に行い近所の方々に声掛け交流を図っている。また、併設しているデイサービスには地域の皆様が利用しており毎日交流している。	自治会に加入し、回覧板のやり取りや、散歩時等の挨拶や言葉掛けを積極的に行っている。又、地域活動のごみ収集等も入居者と共に参加、協力しながら地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在のところ発信できていないので、地域のニーズに合わせた貢献ができるよう検討したい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については、実施しておらず早期に開催できるよう準備している。	運営推進会議は今までに開催されてないが、12月の開催に向けて準備を進め、構成メンバー等について検討している。	地域密着としてのホームの役割や、理解と支援を得る為、地域の多分野の方にメンバーとなってもらい、地域性を考慮し、日時を相談しながら早期に開催することが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の担当者とは、利用者の状況報告の時など情報交換に努めている。生活保護を受給している利用者もいるので、連携を深めようとしている。	市役所に出向く時、入居者も同行して状態を知ってもらう機会にすることもある。担当者来訪時はゆとりを持って滞在してもらい、実情やケアの取組み等に理解と協力関係が得られるようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフが正しく理解し、安全を確保できるときには玄関等施錠をしていないが、普段は、施設が交通量の多い道路に面しており施錠している。	身体拘束について職員は理解し、拘束しないケアを実践している。玄関の施錠について様々検討し、開放を試みたが、立地条件から事故防止と生命・安全第一から止むを得ず施錠している。しかし、自由に外気浴や散歩、職員とドライブに出掛ける等、抑圧感のないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時に説明するとともに、入浴時や全身状態が観察できるときには、必ず身体のチェックを行い虐待が見過ごされないよう注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や生活保護を受給している利用者もあり、勉強会にも参加し必要に応じて家族等に情報提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、または改定時には十分な説明を行い、疑問点を解消できるよう努めている。また、いつでも質問事項など確認が取れるように連絡体制を整えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設置し、重要事項説明書にも明記している。また、面会時や電話のやり取りでも意見や要望を確認している。	面会時や電話等で意見や要望を聞いているが、個人的な身体面の話が主である。行事への参加、協力も呼び掛け、意見や要望を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	あらたまった機会はないが、ミーティング等言いやすい環境で意見や提案を聞いている。また、現場がスムーズに運営できるようスタッフの意見を尊重しできる限り反映できるようにしている。	管理者が職員の意見や提案をいつでも聞き、総括したものを数回の昼礼で申し送り、全員へ周知し、実践に反映しているが、全体会議の定例化は実施していない。	職員個々の意見や提案を活かし、運営に反映する為には、入居者や職員の勤務を考慮し、職員が一同に集まり、相互に話合う機会を持ち、納得して運営に反映することが期待される。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	決算賞与などの際に努力や実績、勤務態度等を考慮し反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修や勉強会を実施している。また、外部で行われる研修などにも積極的に参加しスキルアップが図れるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の複数の事業所との連絡会や勉強会に参加しているほか、外部の研修にも参加してもらいネットワークや交流が持てる機会ができるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査で、利用者や家族の状態やおかれている環境をできるだけ理解し、安心して利用していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査で、利用者や家族の状態やおかれている環境をできるだけ理解し、安心して利用していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要と思われることについては、情報の提供を行い必要により関係機関との連絡調整などを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とスタッフの相互関係について考え、日々の生活の中で利用者の、できること・やりたいことを知り共に取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と過ごす時間を大切にし、施設での利用者の状況を見てもらえる機会が多くもてるよう働きかけ、利用者が快適に生活できるよう協力していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からの関係が途切れることのないよう、面会などに来ていただいたり友人等に会える努力している。また、来苑された際には、苑内でゆっくり過ごせるよう配慮している。	兄妹姉妹、親戚、友人等の面会は家族にも協力してもらい、常時歓迎し、お帰り際には再来されるよう挨拶をしている。又、親に会いたい等の要望には一緒に出掛けたり、墓参りや、法要参加等、外出支援にも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の話しの仲介をするなど、利用者間の関わり合いを大事にしている。共に支え合える関係が出来るよう外出時のメンバーや日々の役割など工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時には相談等が受けられるよう、退居後も年賀状や行事などの際にはお知らせをして関係の継続に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意見を聞くことを第一としている。利用者の日頃の様子や家族にも本人の意向を確認し、利用者の思いにそったケアに努めている。	日常の関わりの中で、会話や行動、表情や様子から把握している。表出出来ない方には寛いだ時間帯にゆっくり聞いたり、幾つかの選択肢の中から選んでもらったり、生活歴や家族の意向で把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査やサマリーなどを通し、把握に努めている。また、利用者や家族にも話しの中で、あらたまった形ではなく聞くこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケース記録や健康状態などサービス提供記録用紙の記録、また、スタッフ間の申し送りを通じて利用者の心身の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が安心して安全に生活できるよう、ケアマネジャーを中心にその都度で話し合い、家族との連絡も取り合って変更の必要性のある場合には対応している。	計画作成担当者が、本人の様子観察や職員からの実態報告をもとに、家族からの意見や要望も参考にし、管理者と話し合い、作成している。状態安定時は1年、変化時はその都度現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段と違うときには特に注意し、日々のケース記録に残し、情報の共有や課題解決に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の思いにそったケアができるよう、できる限り柔軟な対応をしている。また、他のグループホームを訪問したり情報を収集し良いところは見習うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の一員として存在できるように意識し、利用者に聞きながら、公民館活動や地域の行事に参加したりに見学に行ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望を聞いており、入居前のかかりつけ医への受診が多い。また、受診に際してはスタッフが同行し関係を築く努力をしている。	入居前から受診している医療機関やホームの協力医をかかりつけ医にする等、希望と納得の得られる受診をしている。通院には職員が対応し、報告書を作成し、共有している。変化のあった時等必要に応じて家族に報告、話合っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設しているデイサービス配置の看護師に相談しながら健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関の相談員や看護師に、面会に行った際状態を聞いたり情報交換を行い関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にもあらかじめ利用者または家族に終末期の希望を聞き、再度身体状態が低下した際、家族等と話し合い対応するようにしている。	重度化や終末期については、かかりつけ医の判断、指示を仰ぎ、家族と連絡し、早期に対応している。今までに看取りの経験はないが、要望があればその都度関係者と相談しながらホームとして出来得る最大限の支援をする姿勢はある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが、スタッフ全員が実践力を身につけているとは言えず、その都度看護師により指導を受け、対応方法を学んでいる。また、マニュアルは定期的に見直し周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を含めた防災訓練を定期的に行い、スタッフが落ち着いて行動できるよう努力している。地域との協力も今後よりいっそう築きたい。	入居者参加で出火場所や夜間を想定しての訓練、消防署指導の訓練(年一回)を実施し、訓練後は課題を見出し、検討し、話し合い、事故防止と安全対策に繋げている。近隣に協力のお願いはしている。緊急用品、備蓄米等の用意もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の立場に立ったケアができるよう、利用者を尊重し一人ひとりを大切にしたりさりげない支援や本人の能力に合わせた対応を心掛けている。	排泄や入浴の場面では人格を尊重し、声掛けや言葉使いに配慮し、さりげない介助や支援をしている。又、様々な場面で誇りやプライバシーを損ねないよう、ゆっくりとした対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の話しを聞くことを第一とし、利用者の思いや希望ができる限り叶えられるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の健康状態を観察すると共に、利用者の生活リズムを崩すことなく無理強いせず利用者のペースで思い思いに過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容師の訪問があり散髪しているが、希望によっては、理美容室に通うことも可能である。また、化粧品なども買物の際、一緒に出掛け購入している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に合わせて食事準備の配膳や後片付けの食器洗い・テーブル拭きなど一緒に行っている。また、週に1回は、利用者が料理できる機会を設けている。	月～金曜日の昼・夕食は業者より取寄せ、職員が配膳し、必要に応じて刻みやお粥等にして提供している。朝食と日曜日の献立は、入居者の好み等を入れ、買物から調理、下膳まで職員と入居者で行っている。食事は職員も見守りながら会話をし、楽しく食べている。食事の場所を変えたり、行事食も取入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量等についてはその都度記録し、看護師やかかりつけ医と連携し栄養バランスに気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりの自立度に合わせた口腔ケアを働きかけている。必要に応じ歯科検診等も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の言動を見逃さないようにし排泄介助すると共に、日々の記録にて排泄パターンを把握し排泄の失敗をなくすように取り組んでいる。	排泄チェック表を活用したり、様子や行動等でその都度声掛けし、トイレでの排泄に向けた支援をしている。失禁時はさりげなく声掛けし、トイレ内で介助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体を動かす散歩などをすすめ、水分摂取量に注意している。また、必要な方にはかかりつけ医に相談し排泄コントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望をすべて受け入れるのは難しいので入浴日は決めていますが、利用者が入浴を希望するときには臨機応変に対応している。	月曜から土曜までの午前中に毎日実施している。基本的には隔日の入浴であるが、週2回から4回の時もある。拒む方には声掛けを工夫したり、別の日に入ってもらう等、臨機応変に対応している。又、ゆず湯等も行い、入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者のペースで休まれている。その日の体調や室温などに配慮し気持ちよく休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの薬の使用状況がわかるよう、お薬手帳等の薬内容が記載されているものをファイルし、効力や副作用についても理解するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者や家族に生活の仕方や好みの行動について聞き、利用者一人ひとりの能力や嗜好に合わせた役割や楽しみが持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や気候をみながら、外の空気を感じられるよう散歩を行ったり、ドライブなどの外出を定期的に行っている。また、家族にも協力を依頼し家族と過ごす時間が持てるようお願いしている。	日常的に個人で散歩に出掛ける方、皆で出掛ける方、個人的に行きたい所があれば希望した所へと、希望に添った外出支援をしている。又、前庭で外気浴や体操や焼き魚を楽しんだり、ドライブに出掛ける等の外出計画を多く立て、閉じこもらない支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	すべてを見守ることはできないので、希望する方には少額のみ手元に置いてもらっている。また、認知症の程度によるが利用者の希望によっては買物をしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により、その都度電話や手紙の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が生活する居住スペースであること大切に、花を飾ったり写真を掲示するなど心地よく過ごせるよう努めている。また、臭いや室温にも気を配りこまめに調整している。	共用空間であるリビングは、日中デイサービス利用者と一緒に、会話やレクリエーションをして過ごすことの多い場である。季節の花や果物、野菜が飾られ会話やおやつ材料にも活用されている。随所にソファが置かれ、休息や寛ぎの場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下にソファや椅子を置き、思い思いに過ごせる空間作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険のない範囲で利用者の使い慣れたものや、親しみのある物を持ってきていただき、住み慣れた部屋に近づける努力をしている。	各々自分に合った品(ベット、テレビ、衣装ケース、座布団等)を持ち込み、ベットの位置等もその方に合った所に置き、カレンダーや自分の作品を飾り、その方が居心地よく過ごせるよう工夫した居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりが施設内を自由に動けるよう手すり等が随所に取り付けられている。また、張り紙や時計・カレンダーなど見やすいところに掲示している。		